滝上町外国語指導助手

Jordy's コーナー

日本とアメリカでは新年を迎える文化が大きく違います。日本のお正月は除夜の鐘や年越しそば、おせち料理、お餅つき、門松、鏡餅等新年を迎えることを盛大にお祝いします。

私は今年４年ぶりにテキサスでお正月を迎えます。日本とは違って、アメリカではお正月よりもクリスマスの行事を大切にしています。クリスマス等のイベントの時にはホームパーティを行いますが、いつも友人と集まる事がほとんどで、家族みんなで集まってパーティをすることはあまりありません。お正月は家族みんなで集まる珍しい機会です。日本とアメリカの新年の文化には似ている所もあります。

私の家では１年の始めの日に、パーティほど豪華ではありませんが特別な食べ物を食べます。アメリカの南部地域では日本でいう「おせち料理」のような文化があります。ですが北部地域に行くとこの文化は侵透していないようです。様々な国から色々な人が移り住んだ、アメリカならではですね!!

日本のおせちのとの違いは各家庭によって食べる物や料理に込められた意味が変わってきます。ちなみに私の家では、ブラックアイドピーズ（ササゲ豆）、ハム、キャベツを食べます。ササゲ豆は「良い運気を呼び込む」、ハムは「前向きに物事を進める」、キャベツは「新年の豊穣と商売繁盛」の意味がそれぞれ込めてあります。

もう一つ日本に似ているのは「新年の抱負」を決めることです。

抱負を決めて、その達成に向けて頑張るのは万国共通かもしれませんね。私の抱負は「集中力を鍛えたい」と思います。趣味を色々持っている私は、仕事をしている時や他のことをしている時に、興味のあることが目端に入ると集中をそっちに持って行かれることがあるのです。改善するために日記をつけようと思っています。日記は寝る前に頭の中の整理する効果あり、次の日の思考をすっきりとさせる効果があるそうです。

今年は、日本でお正月を過ごせなくて淋しいですが、久しぶりのアメリカでの年越しなので門松やおもちを買って行って、私の家で日本の「お正月」を披露できるのが今からとても楽しみです♪

↑今年のお正月用　門松とおもち

おぐりアイ

小栗EYE

郷土館管理人小栗さんに収蔵品の紹介や、それらにまつわるエピソードなどを紹介していただきます！

『豆炭行火（まめたんあんか）』

「行火（あんか）」は火皿に炭火を埋めて足元を暖める器具です。少し前の時代、北海道の家は、壁は板張り断熱材も入っていません。窓も木枠の一枚ガラスでした。ですから隙間風はどんどん吹き込んできます。吹雪の朝は布団の上に粉雪がうっすら積もっているのはいつものことでした。

寒さをしのぐ法の始めは囲炉裏の火を絶やさないことでした。大きな長い薪を一晩中燃やし続けることでした。囲炉裏の火が消えると凍死の恐（おそれ）に震えました。

蒲団に入っても寒くて眠れるものではありません。そこで足元を暖めたのが、行火であり、湯たんぽであり、焼いた石だったのです。適当な大きさの丸石を焼いて布でしっかり包んで蒲団の中に入れます。布がほどけると火傷をしてしまいます。湯たんぽは陶器やブリキの入れ物にお湯を入れて、袋に入れました。翌朝、湯たんぽのお湯で顔を洗った人もいるでしょう。そして行火です。焼き物の箱の中に、炭火やストーブの燠を埋めた火皿を入れ蒲団の中に入れます。炭火も燠も裸火ですから触れれば火傷しますし、ひっくり返したら火事になります。

昭和30年代になって豆炭あんかが使われるようになりました。

豆炭は大正時代に大阪で造られた石炭や木炭の粉を丸く成形した燃料です。

この豆炭を、石綿を保温材に使った大きな弁当箱のような入れ物に入れた保温具が「豆炭あんか」です。「豆炭一個で一日中暖かい」と言われました。

手間いらずで安全なのでみんなが使いました。やがて、寒地住宅の改良が進み断熱材が入りサッシ窓になり部屋全体が暖かく電気毛布も使われ、「行火」の出番は無くなりました。

※燠…おき、火種の事

郷土館収蔵の豆炭（まめたん）あんかと豆炭（まめたん）